

消化器内科

診療科目：消化器内科

診療科担当研修責任者名：寺井 崇二（消化器内科教授） 診療科連絡先担当名：高村 昌昭（消化器内科総括医長）	連絡先：atmc@med.niigata-u.ac.jp
新臨床研修医指導実績：16年度：25人。17年度：29人。18年度：15人。19年度：12人。20年度：8人。21年度：14人。22年度：12人。23年度：10人。24年度：12人。25年度：14人。26年度：8人。27年度：14人。28年度：9人。29年度：14人。30年度：11人。	

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：8人以内

学会認定専門医数

内科学会認定医35人、内科学会専門医11人、消化器病学会専門医20人、消化器内視鏡学会専門医16人、肝臓学会専門医12人、がん治療認定医7人、肥満症専門医1人、再生医療認定医2人、カプセル内視鏡認定医1人

学会認定指導医数

内科学会指導医6人、消化器病学会指導医7人、肝臓学会指導医5人、内視鏡学会指導医6人、がん治療指導医1人、肥満症指導医1人、カプセル内視鏡指導医1人

学会専門医修練施設としての認定

内科学会認定施設、消化器病学会認定施設、消化器内視鏡学会認定施設、肝臓学会認定施設

診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴等
当診療科は昭和42年に開設され、平成29年には開設50周年を迎えました。市田文弘初代教授のもと、我が国における肝臓病学の先駆的な臨床研究を行い、多くの優れた人材を輩出しました。さらには、朝倉均第二代教授、青柳豊第三代教授のもとで診療・研究において大きな業績を残し、現在、寺井崇二第四代教授の指導の下で総合消化器内科医の育成をめざし、消化器疾患全般に渡って高度な専門的医療を実践しています。当科は、消化器内科ならびに内科全般の考え方と基本手技を修得するとともに、患者様の視点に立ったチーム医療を基本理念としています。年々増加する消化器疾患に対して、高度な知識と技術を身につけた消化器内科医の育成は社会的急務とされており、県内外の消化器専門医療施設と密接に連携を取りながら、消化器内科医の研修を行っています。	限りある研修期間の中で、主要な肝、胆膵、消化管の病気を偏りなく担当できるように配慮しています。5～6人の医師で構成される主治医グループの一員となりますが、卒後4～6年目の比較的若い上級医の直接指導のもとで、研修を行います。当科には、古い封建的な医局体質は全くなく、アットホームな気風に溢れているため、教授をはじめとして、どの上級医、指導医に相談しても、熱心に指導してもらえます。関連病院から紹介される診断治療の困難症例に対して、文献を調べ、検討会で議論を重ねることは、当科も含め大学病院での研修の特徴です。しかし、近年は、急性腹症例などの救急搬送や緊急入院症例も多く、救急医療の実践を学ぶことも十分可能です。また、消化器疾患診療における基本的な検査手技（上部消化管内視鏡検査や腹部超音波検査など）の実技研修を受ける事が出来ます。さらに、高度な診断治療手技である腹部超音波下の穿刺治療、血管造影、各種内視鏡治療などについては、診断や治療方針を決定する各種検討会に参加しその基本を学び、指導医についてその介助ができることを到達目標としています。

脳神経内科

診療科目：脳神経内科

診療科担当研修責任者名：小野寺 理（脳神経内科教授） 診療科連絡先担当名：金澤 雅人（脳神経内科総括医長）	連絡先：masa2@bri.niigata-u.ac.jp
新臨床研修医指導実績：16年度：17人。17年度：18人。18年度：13人。19年度：9人。20年度：9人。21年度：11人。22年度：8人。23年度：6人。24年度：6人。25年度：7人。26年度：3人。27年度：4人。28年度：2人。29年度：6人。30年度：18人。	

受入期間：1ヶ月以上

同時受け入れ可能数：8人以内

学会認定専門医数

日本神経学会専門医22人、内科学会専門医13人、日本認知症学会4人、脳卒中学会専門医2人

学会認定指導医数

日本内科学会指導医11人、日本神経学会指導医10人

学会専門医修練施設としての認定

日本神経学会認定教育病院、脳卒中学会研修教育病院

診療科の概説・特徴	診療科研修の特徴等
脳神経内科は若い学問ですが、当教室は、日本で最も歴史が古い教室の一つです。現在は、小野寺教授の指導の下で、General Neurologistを育成し、神経疾患を克服することを、教室のミッションとしています。脳神経内科で扱う疾患は多彩で、近年、爆発的に患者さんは増加しており、多くのニーズがあります。他の診療科との境界領域も多く、社会と深い関わりがあり、多面的な医療を必要とします。それ故、総合的な臨床力、人間力を必要とし、これらを持つGeneral Neurologistの育成を心掛けています。また、当科は“脳疾患の克服をめざす”脳研究所に属しています。病理、分子生物学の手法を用いた研究が盛んで、成果をNEJM等の著名誌に発信し、世界を牽引しています。競争的研究資金の獲得額は全国有数です。常に、新しい研究を行い、その成果を実臨床に応用していこうという気風に溢れています。最先端の神経病態研究から、患者さんに寄り添った診療まで、幅広い分野でのプロフェッショナルの育成に励んでいる診療科です。関連病院も多く、しっかりとした診療ネットワークも確立しており、急性期から慢性期まで、ライフスタイルに応じた働き方が可能です。	脳神経内科は、臨床と学問、両方の面白さを兼ね備えた診療科で、特徴のある研修が出来ます。臨床面では、最も内科の総合診療に近い診療科です。神経疾患の訴えは多彩で、全身に加え、こころや、生活状況も兼ね合わせて診療する必要があります。また、福祉や、医療倫理面での知識も必要です。これらを含めた総合的な研修を行うことが出来ます。最も大切にしているのが、戦略的な問診と、理学的診察で、検査はその臨床推論を確かめる手段としての位置づけです。この点から、内科の基本手技として身につけるべき“型”を学ぶことが出来ます。経験すると、見識が広がる、稀少な疾患から、ありふれた疾患まで、幅広い研修が可能です。救急疾患も多く、神経救急の実践を学ぶことも出来ます。主治医チームがタイムロス無く治療方針を決めていきますので、体を動かしたい人にも向いています。また難しい症例に対しては、上級医にいつでも相談できますので、安心して研修出来ます。全国唯一の脳研究所に属しており、最新の脳科学研究の成果を学ぶことも出来ます。加えて全国で唯一、神経疾患の病理検討会を毎月行っています。髄液検査、神経生理検査、神経画像検査、神経超音波検査、筋・神経生検、遺伝子検査、病理検査そして、神経診察法や、神経救急などを研修期間で効率よく研修できるように配慮しています。教授が替わったばかりの若い体制で、アットホームで、かつ学問に対する意欲に溢れている教室です。